

和気町教育委員会

【開催年月日】 令和2年8月3日（木）

【召集の場所】 佐伯庁舎 町民室

午後3時開会

【出席者】 教育長 徳永 昭伸
委 員 有正 省三
委 員 齊木 孝
委 員 安藤 知春
委 員 國友 道一

【事務局出席者】 万代教育次長・國定学校教育課長・菅崎社会教育課長・菱川学校教育課長
代理

【付議した議案】

議案第 10号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について

【その他】

- ・新型コロナウイルス感染症対策について（修学旅行・運動会・体育会等）
- ・9月定例議会
- ・共同調理場について
- ・総合教育会議について
- ・視察研修について
- ・研究会
 - ① ウィズコロナ・アフターコロナの学校教育について
 - ② 不登校対策について
- ・その他

審議の記録（一部要約）

開会時刻 午後3時開会

徳永教育長 開会挨拶につづき、議事録署名委員に安藤委員と國友委員を指名した。
6月26日以降の教育長諸般報告を行った。

【議事】

（省略）

徳永教育長 その他について事務局に説明を求めた。

万代教育次長 「新型コロナウイルス感染症対策について」町の方針を説明した。

國定学校教育課長 今後の学校・園の行事や、園児児童及び関係者に新型コロナウイルス感染症
（含PCR検査対象者）が発生した場合の対応・流れについて説明した。

徳永教育長 説明について意見・質問を求めた。

齊木委員 対応や対策案について、保健所と摺り合わせをしているのか。

徳永教育長 まだしてはいない。ここで出た案を和気町対策本部会議で審議する予定であ
る。

齊木委員	協議会で決定した後に折り合わせが必要となった場合に矛盾が出てしまっているといけないので、先にある程度折り合わせをした上で協議会へ持ち込む方が良いのではないかと考えている。
国定学校教育課長	岡山教育事務所から県立学校でのマニュアルが示されたので、それと照らし合わせながら再度確認をしていく。
国友委員	もし学校を臨時休校しなければならない場合は何日ほど休校となるのか。一律に期間などは決まっているのか。
国定学校教育課長	決まっていない。文部科学省が示しているガイドラインでは、一律に臨時休校をする必要のない場合もあるとなっているので、状況に応じて保健所や学校医と協議をしながら適切な期間を決定する予定である。
国友委員	全く休校しない場合もあるのか。
国定学校教育課長	町のガイドラインでは消毒のため最大2日間施設を閉鎖することになっており、また国のガイドラインではウイルスが死滅するまで48～72時間となっているので、2～3日は休校になると思われる。それ以降は濃厚接触者の人数によって変わってくると考えている。
徳永教育長	科学的には先ほど述べたとおりだが、保護者や児童生徒の不安を払拭するためには、ある程度の休校はした方が良いのではないかと考えている。
万代教育次長	次に「9月定例議会」について、教育委員会より提示予定の案件を説明した。
徳永教育長	意見・質問などを求めたが特に無く、つづいて「共同調理場について」事務局より説明を求めた。
万代教育次長	現在、和気学校給食共同調理場・本荘学校給食調理場共に調理員が不足している状況のまま業務を行っている状態で、人員の確保と負担軽減のため、現在和気学校給食共同調理場で調理している和気小学校分を、本荘学校給食調理場で調理することを検討している旨を説明した。
国友委員	和気小学校分と和気中学校分に分けて2回転により調理をしているとのことだが、小中学校分を同時には作れないのか。
万代教育次長	小学校と中学校で食材のカットの大きさが違う。
徳永教育長	加えて給食開始時間が違い、衛生管理基準により調理終了から2時間以内に給食を提供しなければならないため、同時に作ることはできない。 本荘学校給食調理場は3つの調理場の中で一番新しく最大調理食数も多いので、今までより効率よくできるのではないかと考えている。
徳永教育長	その他、意見・質問を求めたが特になし。
万代教育次長	次に「和気町総合教育会議について」日程案及び協議・報告事項について説明し、つづいて「教育委員視察研修について」視察先候補を提示した。新型コロナウイルス対策のため、視察については公共交通機関の使用はせず今までより近隣県にて短期間で行う予定と説明した。
国定学校教育課長	8月研究会「ウィズコロナ・アフターコロナの学校教育について」「不登校対策について」和気町の現状と取り組みを説明した。
齋木委員	説明について意見・質問を求めた。

有正委員	第一線で働いている教職員や支援員等は、現状に対してどのように考えているのか。
國定学校教育課長	現場の声を聞くと、家庭とどう連携を取っていくのかが大きなポイントの一つと思われる。
菱川学校教育課長代理	調査では長期欠席・不登校の要因として家庭環境に係るものが多く挙げられており、教職員もそこに課題があると考えている。また、不登校までとはいっていないが欠席や遅刻が多い予備軍も多数おり、そのような児童生徒には特に注意をし、スクールサポーターや登校支援員を活用して連携を図り不登校とならないよう支援を行っている。
安藤委員	不登校になる可能性のある家庭環境の例として、そもそも家庭の生活リズムが夜型であることや保護者の教育への考え方の違いなどが考えられる。また、オンラインゲームやネット通信等で友人関係のトラブルが起こり、翌日学校に行き難いというようなこともあるようだ。ゲームのルールを保護者の方が子どもとどこまで共有できているかも課題としてあると思われる。
有正委員	家庭環境の多様化で、それを要因とした不登校が増えてしまうことは考えられることである。しかし不登校を一括りにして、ただマイナスと捉えるのも、逆に多様化だからといって全てを許容するのも良くはない。また、学校に行くから良い、行かないから悪いとするのも、現代においては違うだろう。学校生活で人間関係を作らせようとするばかりに、苦手な子どもにはそれが重荷になって逆に不登校となってしまうこともある。 どんどん変化してきている生活環境に対して、教育・学習の仕方は昔からあまり変わっていないように思う。子どもの生活環境・個性・能力資質等に合わせて、より個人に合った教育を行っていかなければならない。教育の考え方の改革が必要だ。
國定学校教育課長	新しい学習指導要領の目標の一つに「誰一人取り残さない」というのが掲げられており、今はそこに向けて授業改善が求められている時である。現在の教育現場では積極的に発言・行動できる児童生徒にスポットが当たりがちだが、今後ITC機器の活用により発言に消極的な児童生徒の意見などもタブレットで取り上げることができるようになるなど、さらに児童生徒全体を万遍なく見ることが出来るようになるだろう。
有正委員	そのためにはまず教職員がITC機器をきちんと使えるようになる必要がある。ので、早い段階で研修組織を立ち上げてほしい。しかしながら、機器を使いこなすことは必要だが、それに頼るばかりで機械が無ければ児童生徒を見ることが出来ないということにならないようにしなければいけない。どこまでを今までのような教育にするか、どこからを新しい教育にするか、見極める必要がある。そのためにはやはり研修は重要となってくるだろう。
國友委員	児童生徒にも教職員にもそれぞれ個性が有るので、担任1人で全ての生徒を見るのは非常に大変だと思う。担任だからといって全てを抱え込んでしまうのではなく、何かあった時には担任以外でも相談ができるような集団指導体制による環境や人間関係を学校全体で整えておくべきである。

國定学校教育課長	そういった観点からもステップアップ支援シートは有効で、今だれが関わるのが一番いいのか等の判断や関わりで分かったことが共有でき、教職員と支援員の連携に役立っている。担任だけが全て抱え込んでしまわないように、全ての教職員が自分の児童生徒だという意識で取り組んでいる。
安藤委員	必ずしも学校に行くことが全てではないと思うが、低学年のうちにある程度“学習する”という基礎を身に付けておかないと、今後オンライン授業などで自宅学習をすることになった場合に自発的に学習することは難しいように思う。学校自体は嫌いではないけれどもなかなか行くことが出来ないような児童生徒に対しては、人間関係を作るためにも低学年のうちにはなるべく学校に行けるよう家庭と連携して特に積極的な支援を行うべきである。
齊木委員	家庭への介入についてはどのようなになっているのか。
國定学校教育課長	家庭と連携するにあたって保護者と学校が良い関係を築けるかどうかというのは大変重要だ。中には教育への考え方の違いで、スムーズなサポートが難しい場合もある。現在はSC・SSWなど専門家が学校に居るので、生徒・保護者両方の面から個人に合った支援を行っていきたいと考えている。
國友委員	不登校・長期欠席に対して、保護者も大きな悩みを抱えていることが多い。保護者の悩みも聞いてあげることが重要。児童生徒本人だけでなく広く周りへも目を向け、話を聞くことが大切だ。
菱川学校教育課長代理	担任が全てできるのが一番良いがそれは大変難しい。ステップアップ支援シートをしっかりと活用し、担任・他の教職員・専門家が連携した組織的な支援に取り組んでいる。
齊木委員	新たな不登校を生まないために、どのような対策をしているのか。
國定学校教育課長	悩みや不安がわかりやすい児童生徒は支援もし易いが、なかなか表面に出てこない児童生徒は支援をするのも難しい。些細な変化を見逃さないように子どもたちとしっかりと関わり、また、何かあった際は言い出しやすい環境と人間関係を整えるよう取り組んでいる。
菱川学校教育課長代理	児童生徒や周りを観察するというのは大変重要だ。一度不登校となってしまうと以前のように戻ることはなかなか難しいので、そうなってしまう前に変化に気が付けるようにしなければならない。ステップアップ支援シートで情報を共有することで、このままだと不登校になりそうな児童生徒を予め把握し、声掛け等の支援を学校全体で行うことができる。
國定学校教育課長	可視化するというのは大事で、目に見える形にすることによって始めて気付けることもある。全体的な傾向と、生徒一人一人を観察・分析した個人の状況、両方を把握しておくことが大切である。
安藤委員	子どもたちも学校に行った際、声掛け等をしてもらうことによって自己肯定感が高まり、登校しようというやる気に繋がっているように思える。学校全体で見てもらっていると本人が思えるのは大切だ。
徳永教育長	不登校というのは本当に児童生徒によって状況が違う。今の学校現場も以前に比べれば集団ではなく個で見るという価値観の多様性が浸透してきているが、教職員の中には「学校に来て教室で授業を受けるのが当たり前だ」とい

う意識が抜け切れていない面もあり、無意識下でそれが出てしまい、不登校の児童生徒に負担をかけていることもある。そのようなことのないように、教職員の意識を改めるよう、度々、学校現場には指示をしている。学校に行きたいけど行くことができない児童生徒に対してどのように支援していくのかを学校全体で考え、個に合った対応をしていくことが大切である。不登校に限らず、今は“個別最適化”と言われるように、より個に合った教育が必要となってくるので、これからの時代に則した子どもたちを育てていくためには、授業改善・意識改革は必須だと考えている。

齊木委員

9月研究会テーマについて、「小規模校の在り方について」資料の説明をした。

万代教育次長

「その他」として、国から教育委員会会議をオンラインでも可能とする文書が出たことを報告した。

万代教育次長

次回教育委員会の開催を9月24日（木）午後3時から開会とした。

徳永教育長

閉会あいさつにて散会。

閉会時刻 午後5時5分

議事録署名

委 員 安藤 知春

委 員 國友 道一

教 育 次 長 万代 明